第３回　「市民参加条例」策定に係るワークショップ　グループ討議　模造紙

グループ名	メンバー名
B	杉村さん、津城さん、藤本さん、山下さん、和久さん、高橋課長、前原

条件

参加者が少なくとも納得することが条件

どうやれば様々な人の意見が反映できるか？

自治会の方にも意見を聞き、理解を求めるべき

市民が市民へ参加を求めていくことも大切では

サイレント
マジョリティー

知らないことの問題

問題にぶつかって初めて感じることもある

さしせまった状況になく、あまり不満を感じていない面も

行政の姿勢

市民の行政参加

市民が検討するプロセスにどの程度関わることが可能か

市民の声を集約するカタチとは

政策決定への市民の意志の反映

市民と行政の食い違い

自治基本条例策定時の課題レビュー

条例のあり方

地域の課題を上手く吸収できる条例

多様な形で受け入れていく方法が条例には必要

参加のハードルが高く感じる

意見を言うことで、市が変わるということが伝われば

実感できること大切